

**所在地** 宮城県七ヶ浜町、塩竈市、利府町、松島町、東松島市

**立地環境** 松島湾沿岸の標高 - 1 ～ 10 m の海浜部および丘陵斜面、島嶼部

**発見遺構** 掘立柱建物、竪穴建物、溝、土坑、製塩炉、灰層、貝層など

**年代** 8 世紀後半～11 世紀

## 遺跡の概要

松島湾製塩遺跡群は、松島湾沿岸および島嶼部に位置する製塩遺構および製塩土器が出土する遺跡の総称である。確認されている遺跡数は 158 で、その分布は大きく①宮戸島・浦戸諸島（江ノ浜貝塚など）、②松島湾奥部（西ノ浜貝塚など）、③塩釜港北部（新浜 B 遺跡など）、④七ヶ浜半島北部（水浜遺跡など）、⑤七ヶ浜半島南部（長須賀遺跡など）に分けられる（第 1 図、文献 9）。水浜遺跡や表浜貝塚のように広く開けた入江に立地する規模の大きい遺跡もあるが、多くは陸側からたどり着けない半島丘陵部端部や、島の切り立った崖を背にした幅数 10m ほどの小さな浜に立地する小規模な遺跡である。

### 1. 製塩遺構

松島湾製塩遺跡群のなかで製塩炉とみられる遺構が確認されたのは、七ヶ浜町表浜貝塚（文献 8）、長須賀遺跡（文献 7）、水浜遺跡（文献 6）、塩竈市新浜 B 遺跡（文献 18）、松島町瑞巖寺境内遺跡（文献 10）、館ヶ崎遺跡（文献 2）、西ノ浜貝塚（文献 17）、東松島市江ノ浜貝塚（文献 14・15）のみで、全体の遺跡数に比べ非常に少ない。

製塩炉には平面形が方形（第 2 図 1）、長楕円形（第 3 図 1・8～11）、円形（第 2 図 8、第 3 図 12）、長方形（第 3 図 13）のものがあり、規模は長楕円形のもので長軸約 3 ～ 6 m、円形のもので直径約 1 ～ 4 m で、平面形・規模ともに多様である。構造は、掘方底面に石敷きをもつもの（第 3 図 11）や、壁面に石材を並べるもの（第 2 図 1、第 3 図 1・8～11）、素掘で浅い皿状のもの（第 3 図 12）がある。

### 2. 製塩土器と遺跡群の変遷

松島湾製塩遺跡群でもっとも古く位置づけられる製塩土器が出土した遺跡として、東松島市亀岡遺跡があり、SI01 からは 8 世紀中頃に位置づけられている土器とともに器壁が薄く平鉢状を呈する製塩土器が出土している（文献 19）。ただし、牡鹿半島東側で太平洋に面した女川湾沿岸の崎山遺跡 SI05 では、8 世紀前半頃の土器とともに器壁の薄い製塩土器が出土しており（文献 1）、松島湾沿岸においても 8 世紀前半まで遡る遺跡が存在する可能性がある。

8 世紀後半代に位置づけられる器壁の薄い製塩土器が出土した遺跡として新浜 B 遺跡、江ノ浜貝塚（文献 15）などがあり、特に方形を呈する新浜 B 遺跡 1・2 号炉は、宮城県域で現在確認できている製塩炉でもっとも古く位置づけられる（第 2 図 1～7）。

9・10 世紀代になると製塩土器の器壁が 1 cm 近い厚手のものとなり、松島湾全体の遺跡で出土するなど、8 世紀代に比べ遺跡数が大きく増加する。水浜遺跡 1～4 号炉でも厚手の製塩土器が出土していることから（第 2 図 8～12、第 3 図 1～3）、この時期の所産とみられる。また表浜貝塚 SL13 炉では、高橋透による土器編年（文献 12）の F 群に相当する須恵系土器高台皿が出土しており、10 世紀末～11 世紀中頃まで土器製塩が行われていた可能性が高い。

### 3. 塩生産のあり方

松島湾周辺では縄文時代晩期から弥生時代にかけて土器製塩が行われていたが、古墳時代にはその

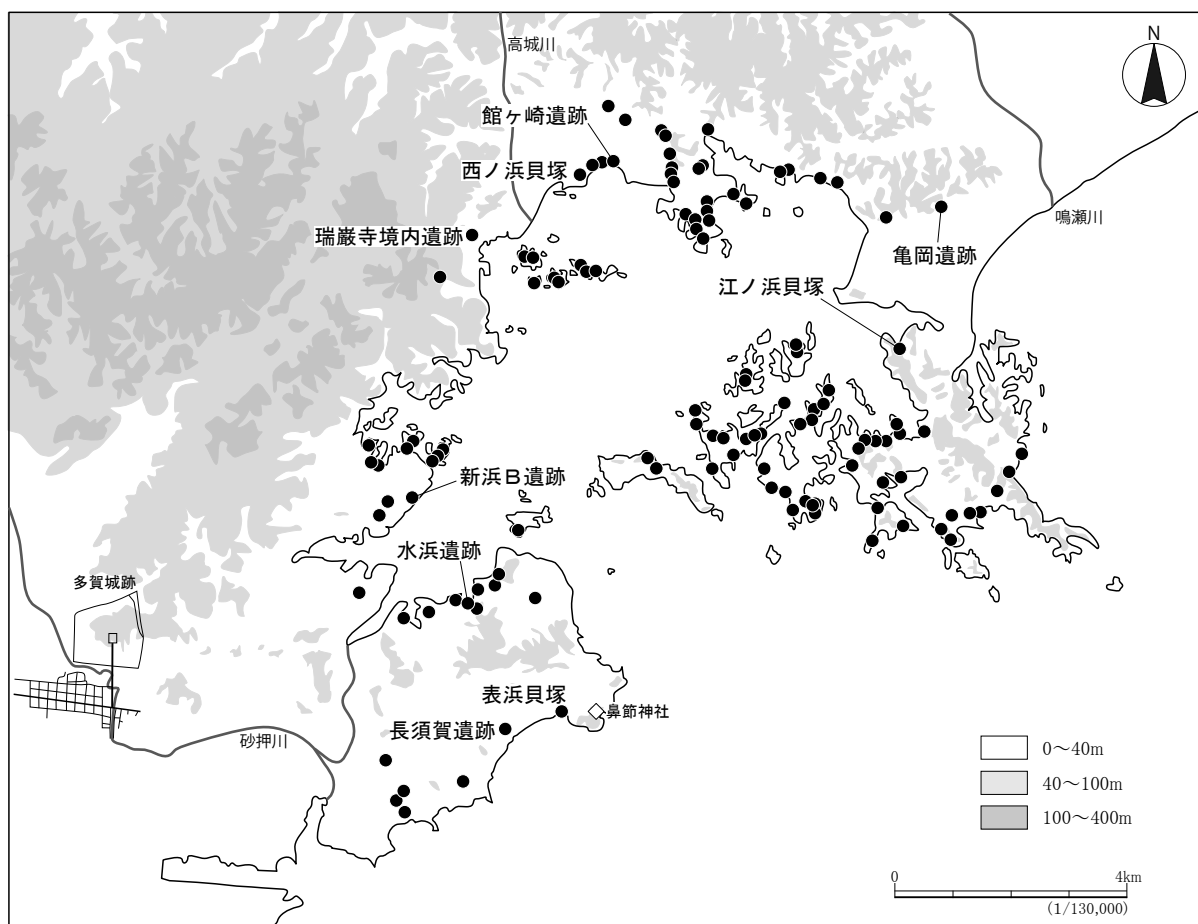
痕跡が認められず、前述のように8世紀中頃には再び行われるようになる。その背景には城柵の設置との関連が指摘されている（文献4）。

技術系譜をめぐっては、円孔の穿たれた土製支脚の存在から北陸地方との関係（文献4）、あるいは8世紀代の製塩土器の器形が平鉢形を呈することから茨城地域との関係が示唆されているが（文献13）、近年では表浜貝塚と長須賀遺跡において東海地方の三河湾沿岸地域で出土する棒状脚をもつ製塩土器が出土し（第4図）、今後さらに検討する必要がある。

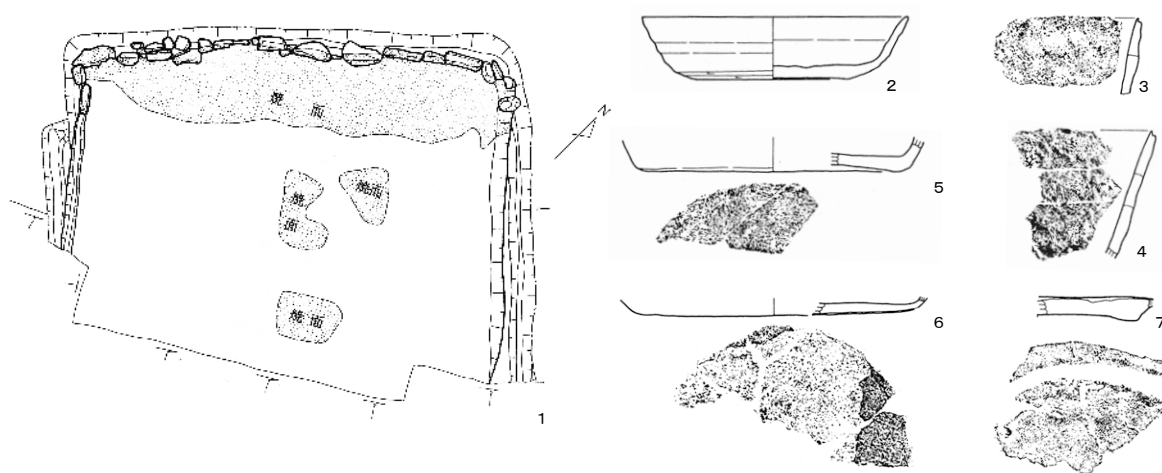
塩生産のあり方については、松島湾沿岸製塩遺跡群では貝層や動物遺存体、漁労具を伴うことが多く、季節的な生業として製塩が行われていたと考えられ（文献14:p.36）、製塩の専門化が未発達だったと推定されている（文献4）。一方、多賀城跡 SB224 整地層では「急竈木運廿人口／□」、「[ ]／[ ] □□□〔郷カ〕出塩竈□」と書かれた木簡が出土し（第5図、文献20）、陸奥国が製塩用の竈を抛出する郷、あるいは竈で用いる木材の運搬にかかわる人を管理していたことが分かり、国府によって塩生産が管理されていた可能性がある。多賀城跡の大畑地区では、製塩土器が「厨」と書かれた墨書や刻書土器に近接して出土する状況が認められ（文献11）、七ヶ浜町に所在する鼻節神社で「国府厨印」が見つかっていることも注目される（文献16）。

## 関連文献

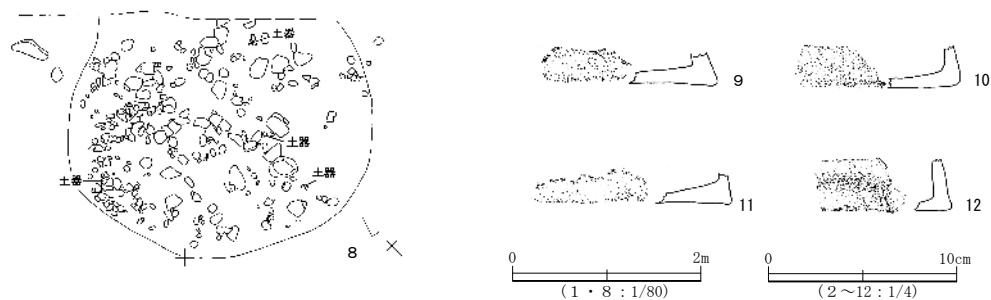
- 1 女川町教育委員会 2017『崎山遺跡』女川町文化財調査報告書第7集
- 2 加藤孝 1978「宮城県宮城郡松島町磯崎西ノ浜館ヶ崎古代製塩遺跡出土品目録の作成」『東北学院大学東北文化研究所紀要』9 pp.56-113
- 3 加藤孝 1983「東北の製塩遺跡の研究—宮城県松島湾の古代製塩跡—」『古代学叢論』角田文衛博士古稀記念 pp.159-169
- 4 岸本雅敏 1989「西と東の塩生産」金子裕之（編）『古代の都と村』古代史復元9 pp.80-90 講談社
- 5 後藤勝彦 2013『仙台湾沿岸貝塚の基礎的研究Ⅴ—その他の貝塚・製塩遺構—』
- 6・7・8 七ヶ浜町教育委員会 1992・2016・2019『水浜遺跡』・『七ヶ浜町震災復興事業関連遺跡調査報告1』・『七ヶ浜町震災復興事業関連遺跡調査報告2』七ヶ浜町文化財調査報告書第8・11・13集
- 9 菅原弘樹 2020「仙台湾周辺における古代製塩と漁撈活動」『東北太平洋沿岸地域の古代社会』科研費「東北太平洋沿岸地域の歴史学・考古学的総合研究」考古学部門：古代貝塚・集落グループ総括報告会要旨集 pp.7-12
- 10 瑞巖寺 2009『瑞巖寺境内遺跡』
- 11 高橋透 2013「東北地方における古代の塩の生産と流通—陸奥湾から太平洋沿岸地域を中心に—」『塩の生産・流通と官衙・集落』第16回古代官衙・集落研究会報告書 pp.81-112 クバプロ
- 12 高橋透 2018「陸奥国府域における10世紀の土器様相」『宮城考古学』第20号 pp.187-206
- 13 津野仁 2008「栃木県と周辺の古代製塩土器」『塩の考古学—ゆく塩、くる塩、古代の塩とその流通を考える—』山梨県考古学協会 2007年度研究集会 pp.25-43
- 14 東北歴史資料館 1989『研究紀要』第15巻
- 15 東松島市教育委員会 2015「江ノ浜貝塚—古代製塩遺構の調査—」『平成27年度宮城県遺跡調査成果発表会』発表要旨 pp.31-34
- 16 平川南 2012『東北「海道」の古代史』岩波書店
- 17・18 宮城県教育委員会 1968・1996『西ノ浜貝塚緊急発掘調査概報（第二次）』・『新浜B遺跡』宮城県文化財調査報告書第16・113集
- 19・20 宮城県多賀城跡調査研究所 2004・2012『亀岡遺跡Ⅱ』多賀城関連遺跡調査調査報告書第29冊・『多賀城木簡Ⅰ』多賀城跡調査研究所資料Ⅱ



第1図 松島湾製塩遺跡群の位置 (文献11をもとに作成)



新浜B遺跡2号炉 (1) と出土した須恵器 (2) と製塩土器 (3~7)



水浜遺跡1号炉 (8) と出土した製塩土器 (9~12)

第2図 松島湾製塩遺跡群の製塩炉と出土遺物 (1) (文献6・18から作成)

